

## 精神的に貧しい 私たちの生活行動

# 広報市民レポーター野 村 裕 子 (川口)

岩尾昌子さんは、小児科のお医者さんで、大館保健所の所長さんです。保健所長さんは、医師でなければならぬことを、皆さんにご存じでしたか。私は初めて知りました。お医者さんの前にすわり診察を受ける患者のような気分で少し緊張しながら、所長さんにお話を伺いました。

所長さんは、開口一番「警察署の「署」と保健所の「所」の違いはどこにあるのか、わかりますか?」と私に尋ねられました。私は、予期していませんでしたので、ちょっと困りました。

「署」は、法律に違反したら罰を与えるところで、「所」は指導するところ、つまり、保健所は、住民の初步的、基礎的な生活の意識を向上させるところです」と教え

また「人間はだれでもどこかに病気を持っています。だから体の不自由な方が、街を歩いているのを見て指差すことや、近所に精神障害で薬を飲んでいる人がいても中傷することはやめてほしいのです。『デイー・ケア』——障害をもつ人と一般の人をもつと接する場所や機会が必要です」と話します。

保健所では、健康や精神衛生、環境衛生などの相談所を設けており利用してもらいたいとのことです。

「結核などの病気は、検診を受ける人の中に多い。自分の健康に、もつと気をつかってほしいしまた保健所の相談所で話をするとたまに、心の負担は軽くなりますよ」

わかりやすく、具体的なお話をたくさん伺いました。

街の中を歩くと、歩道に黄色い点字ブロックの帯があります。これはデコボコの帶があります。これは点字ブロックと言つて、目の見えない人が一人でも歩けるようにと作られたものです。

でも、目の見えない人のためだけではありません。私などは、考えごとをしながら道を歩いていて交差点の点字ブロックで、ふと我にかえることがあります。このブロックがあってよかつたと思います。

岩尾所長さんは、体のためには歩くことが大事だといつていまし

### 歩道は 歩行者が優先

ガラスの破損……駅の安全と清掃のためにたつた一人でもいいです  
から、いつも駅に人を置いていた  
だけないでしょうか。

な中を平気な顔でヘルを鳴らして自転車で通る人たちの神経を疑いたくなりります。

危ないと思ったときは、自転車を降りて押して歩いていただけないでしょうか。お願ひします。

最近、新築や改築したお店の入口に、自転車を置くスペースを設けたところが何軒かあります。本当にいいことだと感謝しています。

まとめとして、今回の取材を通じて感じたことは、私たちの生活は物質的に豊かになりましたが、本当は精神的に貧しい生活をしているのではないでしようか。愚かな行動ばかりが目立ちます。

最後にお忙しい中を取材に応じてくれました岩尾保健所長さん、いろいろご教示くださいましてありがとうございました。

第4回広報市民レポーターだより



## 大館保健所長 岩尾先生との1時間

所長さんは、とても多忙です。保健所本来の仕事のほかに、献血があると、その場に出向く。市立病院のお医者さんとの連絡会や勉強会に出席。福祉事務所や保健センターとも連絡を密にする……。「地域住民の生活意識向上や教育、福祉などさまざまな問題を、みんなで考える関連機関のパイプ役になればと思っています」と話します。

下川沿駅のことを書きります。論を先に言いますと、この無人駅に、常時、人を置いておけないものでしようか。

無人駅に  
管理人を

◀左が岩尾保健所長さん、右が野村レポート

「庄錦市民レポーターだより」は、6人のレポーターが独自に取材した記事を掲載しています。